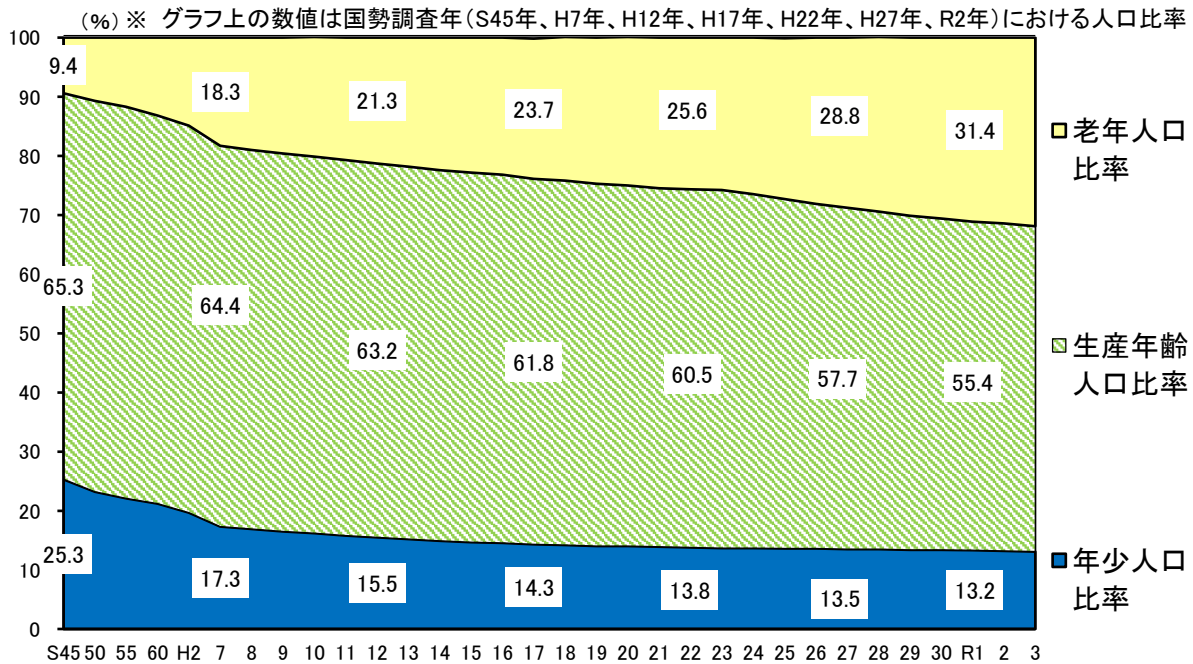


熊本県の年齢3区分別人口比率の推移



解 説

【概要】

令和3年の県内の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口13.1%（前年13.2%）、生産年齢人口55.0%（前年55.4%）、老年人口31.9%（前年31.4%）となっている。

昭和45年以降の推移をみると、昭和55年を境に生産年齢人口が年々減少し、また、年少人口も平成初期に2割を割り込み、それ以降も減少が続いている。

一方で、65歳以上の老年人口比率の推移をみると、昭和45年に9.4%だったものが、平成10年には20.2%と2割を突破し、令和3年には31.9%（全国平均28.9%）と全国平均よりも早く高齢化が進行している。

○年少人口
0歳から14歳までの人口

○年少人口比率
 $\text{年少人口} \div \text{総人口} \times 100$

○生産年齢人口
15歳から64歳までの人口

○生産年齢人口比率
 $\text{生産年齢人口} \div \text{総人口} \times 100$

○老年人口
65歳以上の人口

○老年人口比率
 $\text{老年人口} \div \text{総人口} \times 100$

資料出所	調査期日	調査周期
「人口推計年報」総務省統計局	令和3年10月1日	毎年